

# 令和元年度 宜野湾市平和学習派遣事業



## 派遣報告書

令和元年8月7日～8月10日  
長崎県長崎市



## 市長あいさつ

平和学習派遣事業は平和行政の推進を目的に、平成17年度より開始し、今年度で14回目の実施となりました。市内各小中学校から選出された児童生徒を被爆地長崎へこれまでに述べ112名を派遣し、毎年8月7日に行われる「平和祈念式典」及びその前日より2日間に渡り開催される「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国の青少年と共に、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでおります。



先の大戦で経験した、沖縄での地上戦や広島・長崎を一瞬にして廃墟と化した原子爆弾投下。このような惨劇が二度とこの地球上で繰り返されることのないよう、過去の歴史をしっかりと若い世代へ伝えていく、そしてその中で平和の大切さを改めて実感させ、「戦争も核兵器もない、平和で希望ある世界」を目指す、という本事業の役割は戦後70年余りが経過した今日、ますます重要となっております。

唯一の被爆国として、日本が、核兵器廃絶の実現に向け、国際社会において主導的役割を果たすことを期待いたします。

本市におきましても、昭和60年に反核・軍縮平和都市宣言を行い、平和市長会議と連携し、核兵器の非人道性を訴え、全世界に向けて核兵器廃絶を求め続けております。

現在、日本国土のわずか0.6%の小さな島沖縄に、在日米軍施設の約74%が存在しております。市域の約30%が米軍基地に占められ、なかでも市の真ん中に居座る普天間基地は市域の約25%を占め、ドーナツ状の街を形作っております。この特異な地形は、市の発展を大きく阻み、そして何より市民の生命・財産を脅かし続けております。さらに、2012年からは、普天間飛行場へMV-22オスプレイが強硬配備されたことにより、市民の基地負担はもはや限界に達していると言わざるを得ません。ついては、関係機関と連携し、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還に向け取り組んでまいります。

さて、今年には戦後75年になります。年々戦争体験者が減少していることに伴い、戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継いでいくことが困難となりつつあります。しかしながら、今を生きる私たちは、次の世代へと戦争の悲惨さ、平和の大切さを継承していく義務があります。派遣生徒の皆様には、今回の平和学習を通して、命がいかに尊くかけがえのないものなのかを学び、これからも平和を強く意識し成長されることを願います。

本市といたしましても、沖縄戦及び原子爆弾によりお亡くなりになられた人々を追悼し、再び悲惨な戦争が起こらないよう、平和事業をとおして平和の大切さ、命の尊さを次の世代へと語り継いでまいります。

最後に、この事業にご参加いただきました生徒やその保護者の方々へ、本事業への多大なるご理解ご協力に対して御礼を申し上げますとともに、市民の皆様には平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念いたします。

令和2年3月  
宜野湾市長 松川 正則



## 目次



実施概要	3
団員名簿	4
事前学習	5
派遣日程	6
青少年ピースフォーラム	7-9
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典	10
長崎平和宣言（長崎市長 田上 富久）	11-12
平和への誓い（被爆者代表 田中 熙巳）	13
その他 資料	14
派遣生徒報告	
■ 普天間中学校	1年 平 結和 . . . . . 15
■ 普天間中学校	1年 金武 沙弥乃 . . . . . 16
■ 真志喜中学校	1年 宮良 綾花 . . . . . 17
■ 真志喜中学校	1年 宮城 ちゃこ . . . . . 18
■ 嘉数中学校	1年 名嘉眞 遥音 . . . . . 19
■ 嘉数中学校	1年 名護 天志 . . . . . 20
■ 宜野湾中学校	1年 屋良 磨輝 . . . . . 21
■ 宜野湾中学校	1年 屋嘉比 絢奈 . . . . . 22
実施要綱	23-24
平和都市宣言（宜野湾市）	25

# 実施概要

## 1. 背景と目的

戦後 70 年余りが経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が減少している今日、戦争を知らない世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

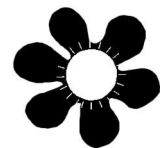
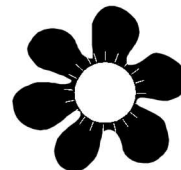
この過去の事実をしっかりと捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では市内生徒（中学生）を対象に、沖縄戦を学びながら、去る大戦での被爆地長崎を訪問する「宜野湾市平和学習派遣事業」を実施しております。

毎年 8 月 9 日に開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」へ参加し、全国の青少年と交流をする中から命の尊さや平和の大切さを学ぶことによりこれからの平和な社会を築くことを目的とします。

## 2. 実施経過

- 平成 31 年 4 月 10 日  
宜野湾市長より宜野湾市教育委員会へ事業協力依頼  
市内各中学校校長へ派遣生徒の推薦依頼
- 令和元年 7 月 12 日  
派遣生徒・保護者を対象に事業説明会
- 令和元年 7 月 24 日  
派遣生徒を対象に事前学習会
- 令和元年 8 月 7 日～10 日  
長崎市で平和学習実施
- 令和元年 8 月 22 日  
市長・教育長・保護者及び学校関係者へ学習報告会



  
 団員名簿（令和元年度宜野湾市平和学習派遣事業）  


学 校 名	氏 名	学 年
普天間中学校	平 結和	1年
普天間中学校	金武 沙弥乃	1年
真志喜中学校	宮良 綾花	1年
真志喜中学校	宮城 ちゃこ	1年
嘉数中学校	名嘉眞 遥音	1年
嘉数中学校	名護 天志	1年
宜野湾中学校	屋良 磨輝	1年
宜野湾中学校	屋嘉比 絢奈	1年
宜野湾中学校 教諭	山川 貴子	引率
宜野湾市役所 市民協働推進課	里村 圭祐	事務局

# 事前学習

長崎への派遣に先立ち、パワーポイントや資料を活用して、太平洋戦争と沖縄戦の概要を学習後、平和劇を鑑賞し、南部戦跡巡り

期 日：令和元年 7 月 24 日（水） 9:00～17:00

場 所： 宜野湾市役所（消防講堂・白梅学徒隊の壕・白梅飯炊きの井泉・富盛の大石獅子・又又マチガマ）

## 消防講堂

パワーポイントや資料を活用し太平洋戦争と沖縄戦との関係についての概要を学びました。



## 消防講堂

劇団 OZE による、平和劇「白梅学徒隊から託されたもの」を鑑賞しました。

## 白梅学徒隊の壕

観劇した平和劇をベースに白梅学徒隊の沖縄戦をリアルに感じ、追体験をした。



## 富盛の大石獅子

沖縄戦においてこの大石獅子が米軍からの弾除けとされた。大石獅子には銃弾の跡が残っている。

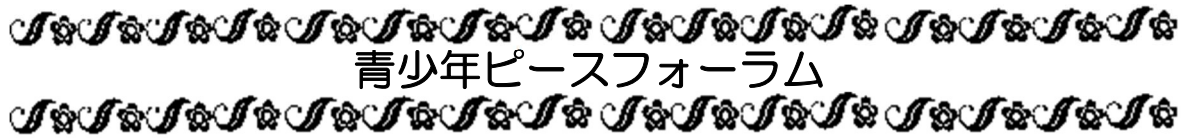

## 又又マチガマ

又又マチガマには 1,000 名以上の傷病兵が收容され、軍医・看護婦・白梅学徒隊などが昼夜を徹して活動していた事を学んだ。



  
**派遣日程(令和元年度 宜野湾市平和学習派遣)**  


日付	時間	日 程
第1日目 8月7日 (水)	8:10 9:30 11:15  15:00  18:00 20:00 21:00	那覇空港国内線3階 ANA ツアーカウンター前集合 那覇発 全日空 1202 便にて福岡へ 福岡空港着 貸切りバスにて長崎へ(所要時間/約2時間30分) バス車内にて昼食お弁当  貸切りバスにて長崎市内視察 ◎出島資料館 ◎グラバー園  レストランにて夕食 ◎稲佐山ロープウェイ ホテル着
第2日目 8月8日 (木)	7:00  9:00  12:00  13:00 14:00 15:10  18:00 19:30 20:00	ホテルにて朝食 各自にて移動 ◎原爆資料館見学 ◎浦上天主堂 ◎如己堂 ◎平和公園など  園田真珠にて昼食  ピースフォーラム参加受付(平和会館ホール) 開会行事(被ばく体験講話など) 班別交流会(15:10~17:20) 青少年ピースフォーラム(Aコース)  夕食交流会(長崎新聞文化ホール) 交流会終了後、ホテルへ ホテル着
第3日目 8月9日 (金)	7:00  8:00  10:35  12:00  13:30  19:00	ホテルにて朝食  各自にて移動 <b>「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」</b>  和泉屋にて昼食  青少年ピースフォーラム(Aコース)  見学後、市内レストランにて夕食 ホテル着
第4日目 8月10日 (土)	7:00 8:00 10:30  11:40  13:00 13:30 15:25 17:10	ホテルにて朝食 専用バスにて移動(所要時間/約2時間30分) ◎九州国立博物館  太宰府天満宮 見学 太宰府天満宮本殿裏「照星館」にて昼食(合格御膳)  太宰府天満宮 出発 福岡空港着 ⇒ 搭乗手続き 福岡発 ANA1209 便にて沖縄へ 那覇空港着


  
**青少年ピースフォーラム**
  


令和元年度 青少年ピースフォーラム

期日：令和元年 8月7日(水)～10日(土)

主催：長崎市

8月9日の平和祈念式典にあわせて、実施されるフォーラム。全国の自治体が派遣する平和使節団約 504 人の青少年と長崎の青少年とが、被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図る。

このフォーラムには、長崎市青少年ピースボランティアの高校生や大学生も参加し、平和学習の進行やフィールドワークの案内などを行っています。

宜野湾市は、平和学習Aコースに参加しました。

■ プログラム

日	時	内 容 <場 所>	
1日目 8/8 (木)	14:00 ～15:15	1) 開会行事（被爆体験講話など）<平和会館ホール>	
	15:25 ～17:25	【コース別の平和学習】長崎原爆の実相について学びます。	
		<<A コース>> 2) 平和学習<平和会館ホール> こじんまりフィールドワーク (屋外) <原爆資料館周辺>	<<B コース>> 2) 被爆建造物等の フィールドワーク (屋外) <原爆資料館周辺>
	18:00 ～19:30	3) 交 流 会 (希望者) <長崎新聞文化ホール>	
2日目 8/9 (金)	午前	4) 原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列<平和公園ほか> もしくは、4) 長崎市立中学校での平和集会への参加	
	13:30 ～15:30	【コース別の平和学習】平和について考えます。	
		<<A コース>> 5) 平和学習 <平和会館ホール>	<<B コース>> 5) 平和学習 <長崎ブリックホール国際会議場>



# 青少年ピースフォーラム Aコース1日目



## ■ 被爆体験講話

講師 築城 昭平（ついき しょうへい）さん（被爆当時 18 歳）  
 当時長崎師範学校在学中。（18 歳）軍需工場へ学徒動員され、爆心地から 1.8 km の学校の寮で、当日の夜勤に備えてそなえ睡眠中に被爆。全身火傷を負う。特に左腕と左足先は重症だった。

（公財）長崎平和推進協会 HP より

## ○グループ学習

ピースボランティア（学生）の進行のもと、アイスブレイク。スライドを使用し、被爆の実相や長崎市における平和に関する取組を紹介。その後、紙芝居「城山国民学校の物語」・平和2択クイズ・フィールドワークを行い、戦争と平和について学びました。



▲自己紹介



▲二者択一クイズ



▲ふりそでの少女像



▲紙芝居「城山国民学校の物語」



▲原爆殉難教え子と教師の像



▲フィールドワーク

## 夕食交流会

長崎市が主催するフォーラム参加団体が集う夕食交流会へ参加しました。全国から集まった青少年と交流を図ることができました。



# 青少年ピースフォーラム Aコース2日目

2日目は、長崎に投下された原爆やその時の被害状況等について学んだ後に、グループごとに分かれ、「争いの原因とみんなにできる解決策」について議論し、その内容を各グループで発表しました。



▲グループで話し合い



▲自分の意見を書き出し



▲グループの意見をまとめている様子



▲グループ内での発表



▲みんなで一つのパズルを組合せパネルの完成



▲Aコース参加者全員と集合写真

  
**長崎原爆資料館見学（8月8日）**  


原爆資料館では、爆風で破壊された建物、熱線によって溶かされた皮膚、放射線による病気など、一発の原爆によって一瞬にして変わってしまった長崎の街や人々の被爆の状況について、また、今なお存在する核兵器とその脅威について学びました。



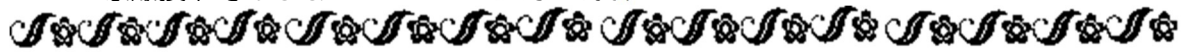

▲原爆投下時のCG



▲原子爆弾



▲原爆被爆のパネル展

  
**長崎原爆資料館見学（8月9日）**  




▲平和祈念像



▲式典会場前



▲平和祈念公園（式典会場）



▲式典会場

長崎市の平和公園で開催された「被爆74周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列しました。長崎で原子爆弾がさく裂した8月9日午前11時2分に、原爆犠牲者への慰霊の為黙とうを行いました。そして、長崎平和宣言、平和への誓い、被爆者合唱等が行われ、核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを誓いました。

~~~~~  
長崎平和宣言  
~~~~~

目を閉じて聴いて下さい。

幾千の人の手足がふきとび  
腸わたが流れ出て  
人の体にうじ虫がわいた  
息ある者は肉親をさがしもとめて  
死がいを見つけ そして焼いた  
人間を焼く煙が立ちのぼり  
罪なき人の血が流れて浦上川を赤くそめた  
ケロイドだけを残してやっと戦争が終わった  
だけど……  
父も母も もういない  
兄も妹ももどってはこない  
人は忘れやすく弱いものだから  
あやまちをくり返す  
だけど……  
このことだけは忘れてはならない  
このことだけはくり返してはならない  
どんなことがあっても……

これは、1945年8月9日午前11時2分、17歳の時に原子爆弾により家族を失い、自らも大けがを負った女性がつづった詩です。自分だけではなく、世界の誰にも、二度とこの経験をさせてはならない、という強い思いが、そこにはあります。

原爆は「人の手」によってつくられ、「人の上」に落とされました。だからこそ「人の意志」によって、無くすことができます。そして、その意志が生まれる場所は、間違いなく、私たち一人ひとりの心の中です。

今、核兵器を巡る世界情勢はとても危険な状況です。核兵器は役に立つと平然と公言する風潮が再びはびこり始め、アメリカは小型でより使いやすい核兵器の開発を打ち出しました。ロシアは、新型核兵器の開発と配備を表明しました。そのうえ、冷戦時代の軍拡競争を終らせた中距離核戦力（INF）全廃条約は否定され、戦略核兵器を削減する条約（新START）の継続も危機に瀕しています。世界から核兵器をなくそうと積み重ねてきた人類の努力の成果が次々と壊され、核兵器が使われる危険性が高まっています。

核兵器がもたらす生き地獄を「くり返してはならない」という被爆者の必死の思いが世界に届くことはないのでしょうか。

そうではありません。国連にも、多くの国の政府や自治体にも、何よりも被爆者をはじめ

とする市民社会にも、同じ思いを持ち、声を上げている人たちは大勢います。

そして、小さな声の集まりである市民社会の力はこれまでも、世界を動かしてきました。1954年のビキニ環礁での水爆実験を機に世界中に広がった反核運動は、やがて核実験の禁止条約を生み出しました。一昨年の核兵器禁止条約の成立にも市民社会の力が大きな役割を果たしました。私たち一人ひとりの力は、微力ではあっても、決して無力ではないのです。

世界の市民社会の、皆さんに呼びかけます。

戦争体験や被爆体験を語り継ぎましょう。戦争が何をもたらしたのかを知ることは、平和をつくる大切な第一歩です。

国を超えて人と人との間に信頼関係をつくり続けましょう。小さな信頼を積み重ねることは、国同士の不信感による戦争を防ぐ力にもなります。

人の痛みがわかることの大切さを子どもたちに伝え続けましょう。それは子どもたちの心に平和の種を植えることになります。

平和のためにできることはたくさんあります。あきらめずに、そして無関心にならずに、地道に「平和の文化」を育て続けましょう。そして核兵器はいらない、と声を上げましょう。それは小さな私たち一人ひとりにできる大きな役割だと思います。

すべての国のリーダーの皆さん。被爆地を訪れ、原子雲の下で何が起こったのかを見て、聴いて、感じてください、そして核兵器がいかに非人道的な兵器なのか、心に焼き付けてください。

核保有国のリーダーの皆さん。核不拡散条約（NPT）は、来年、成立からちょうど50年を迎えます。核兵器をなくすことを約束し、その義務を負ったこの条約の意味を、すべての核保有国はもう一度思い出すべきです。特にアメリカとロシアには、核超大国の責任として、核兵器を大幅に削減する具体的道筋を、世界に示すことを求めます。

日本政府に訴えます。日本は今、核兵器禁止条約に背を向けています。唯一の戦争被爆国の責任として、一刻も早く核兵器禁止条約に署名、批准してください。そのためにも、朝鮮半島非核化の動きを捉え、「核の傘」ではなく、「非核の傘」となる北東アジア非核兵器地帯の検討を始めてください。そして何よりも「戦争をしない」という決意を込めた日本国憲法の平和の理念の堅持と、それを世界に広げるリーダーシップを発揮することを求めます。

被爆者の平均年齢は既に82歳を超えています。日本政府には、高齢化する被爆者のさらなる援護の充実と、今も被爆者と認定されていない被爆体験者の救済を求めます。

長崎は、核の被害を体験したまちとして、原発事故から8年が経過した今も放射能汚染の影響で苦しんでいる福島の人々を変わず支援していきます。

原子爆弾で亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げ、長崎は広島とともに、そして平和を築く力になりたいと思うすべての人たちと力を合わせて、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に力を尽くし続けることをここに宣言します。

2019年（令和元年）8月9日

長崎市長 田上富久

## 平和の誓い

1945年8月、アメリカが広島・長崎に原爆を投下し20数万人の命が奪われました。私は当時11歳、爆心地から約2kmの自宅で被爆しました。

母と4人の弟・妹は佐賀へ疎開していて難を逃れましたが、父は爆心地から500mの工場で爆死していました。私たちは兄弟3人で焼け残りの木片を集めて焼け落ちた工場の傍で父の遺体を荼毘に付しました。しかし、焼けていく遺体を見るに耐えきれず燃え上がる炎を見ながらその場を離れました。翌日、遺骨を拾いに行きました。でも遺体は半焼けで完全に焼けていたのは手足の一部だけでした。「せめて頭の骨だけでも拾って帰ろう」と兄が言い、火箸で頭の部分に触れたら頭蓋骨は石膏細工を崩すように割れ白濁した半焼けの脳が流れ出したのです。兄は悲鳴を上げ火箸を捨てて逃出しました。

私もその後を追って逃出したのです。私たちはこんな状態で父の遺体を見捨ててしまいました。原爆で火葬場も破壊されたため、家族や身内を亡くした人々は私たちと同じように無残な体験をしなければならなかったのです。それだけではありません。辛うじて生き残った人々は熱線による傷や放射能による後遺症に悩まされながら生きていかなければなりませんでした。

私は原爆の被害を受けて20数年後、急性肝炎、腎炎を発症し今なお治療を続けています。更に60数年後には胃ガンに侵され2008年2010年にガンを摘出する手術を受けました。あの時、私と一緒に行動した兄と弟もガンに侵され治療を続けています。

あれから74年、被爆者の私達は多くの方々と「核兵器廃絶」を訴え続けてきました。また、60歳を過ぎて英語を独学で学び、2015年11月長崎で開催されたパグウォッシュ会議では世界の科学者に英語で「核兵器廃絶」に力を貸して下さいと訴えました。しかし、ロシア、アメリカなどの国々に今なお13,880発もの核兵器が保有されていると言われています。

更にアメリカはロシアとの間に締結している中距離核戦力全廃条約からの離脱を宣言しました。2月にはトランプ政権になってから2回目の「臨海前核実験」を行ったと報じられています。これは「核兵器の廃絶」を願う人々の期待を裏切る行為です。

被爆者は日を追うごとに亡くなっています。私はこの場で安倍総理にお願いしたい。

被爆者が生きている内に世界唯一の被爆国として、あらゆる核保有国に「核兵器を無くそう」と働き掛けてください。この問題だけはアメリカに追従することなく核兵器に関する全ての分野で「核兵器廃絶」の毅然とした態度を示して下さい。勿論、私も死ぬまで「核兵器廃絶」を訴え続けます。それが74年前、広島・長崎の原爆で失われた20数万人の命、後遺症に苦しみながら生き残っている被爆者に報いる道だと思います。

私は第2次世界大戦によって310万人の命を犠牲にした日本が、戦後に確立した「平和憲法」を守り続け、戦争や核兵器もない世界を実現する指導的な役割を果たせる国になって欲しいと念願し「平和への誓い」と致します。

Please lend us your strength to eliminate nuclear weapons from the face of the earth  
And make sure that Nagasaki is the last place on Earth to suffer an atomic bombing.

Thank you.

2019年8月9日

被爆者代表 山脇佳朗

# その他 資料

8/21

## 被爆地・長崎での平和学習を報告

市では、平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために市内各中学校の生徒を、被爆地長崎市へ派遣しています。事前学習として、午前には沖縄戦の概要の説明を受けた後平和劇を鑑賞。午後は南部戦跡巡り。長崎では、青少年ピースフォーラムへ参加し、「争い(ケンカ/戦争など)の原因って何だろう」をテーマに積極的に意見を交わしました。また、平和祈念式典へも参加し、原爆被害者の冥福と世界恒久平和を祈りました。



### 『派遣生徒の感想』(抜粋)

普天間中学校 1年 平 結和

- ・長崎への派遣前後で平和に対する考えが変わった、原爆の事、戦争の恐ろしさをしっかり伝えて行きたいです。

普天間中学校 1年 金武 沙弥乃

- ・今回の被爆体験者からの生の声を伝えていくこと、日本や世界の平和に微力でも力になれば良いと思います。

真喜志中学校 1年 宮良 綾花

- ・戦争体験者の思いを忘れないように原爆や戦争の悲惨さをできるだけたくさんの人に伝えていこうと思います。

真志喜中学校 1年 宮城 ちゃこ

- ・核兵器は人間だけでなく自然、建物、動物、全部をバラバラにしてしまう、戦争は二度としてはいけない。

嘉敷中学校 1年 名嘉真 遙音

- ・核の恐ろしさがもっと広まって「もう二度と」広島、長崎で起きたようなことがないように伝えていこうと思っています。

嘉敷中 1年 名護 天志

- ・今回学んだ戦争の事実、命の尊さ、大切さ、全ての事実がかけがえの無いものだという事をたくさんの人へ伝えたいです。

宜野湾中学校 1年 屋良 磨輝

- ・この機会に学習した事、戦争がだめと言うだけでなく原子爆弾の危険で恐ろしい事を、しっかり皆に伝えて行きたいです。

宜野湾中学校 1年 屋嘉比 絢奈

- ・被爆者、戦争体験者が少なくなっている今、平和への思いを胸に、私は次の世代に語りつぎ後世に残していきます。

8/19

### 学んだ事をまとめました ポスター作成中!



11/10

### サンエーにて長崎派遣代表生徒による発表 「次世代に伝える平和学習劇」開催



長崎平和学習派遣事業参加生徒による発表劇団 O・Z・E による「平和劇・白梅学徒隊に託されたもの」を公演、パネル展が行われました。子供からお年寄りまで、多くの方が来場し、大いに盛り上がりました。

9/11

### 中学校イベント 市内各中学校劇団 OZE による平和劇



市内 4 中学校にて、長崎へ派遣された生徒による発表後、パワーポイントを活用し、アクティブラーニングによるディスカッション形式(挙手型)実施。劇団 O・Z・E による「平和劇・白梅学徒隊に託されたもの」を公演、

11/5

### 学習成果報告 市役所内ロビーにて生徒制作パネル展



## 派遣生徒報告



### 「長崎で学んだこと」

普天間中学校 1年  
平 結和

僕は、8月7日から10日までの4日間、宜野湾市平和大使として長崎県に行きました。

僕は長崎県に初めて行ったのですが、路面電車や中華街など街並みはとてもきれいで、原子爆弾が投下されたとは思えませんでした。

そして長崎では、色々なことを学びました。まず、原爆資料館では、当時の悲惨さをものがたっているボロボロになった建物や、折れ曲がった鉄柱、11時2分で止まっている時計などが展示されていました。中には、丸焦げになった人々の写真があり、原爆の恐ろしさを痛感しました。

その日の午後、ピースフォーラムに参加しました。ピースフォーラムでは、実際に被爆した人の話を聞いたり、スクリーン紙芝居で平和について学んだりしました。中でも驚いたのは、世界には約13,880発の核爆弾があるという事です。一発でもものすごい被害が出る爆弾が、あと13,880発もあると思うと、ゾッとします。フィールドワークでは、実際に被爆地に行って目で見て体験しました。

そして8月9日、僕達は平和式典に参加しました。式典には、原爆で亡くなられた方の親族や安倍総理も参加していました。その中でも被爆者代表の言葉「世界で唯一の被爆国として、あらゆる核保有国に核兵器をなくそうと働きかけてください」という言葉がとても心に残りました。そして被爆者だけの合唱団も、存在自体がすごいと思いました。

僕は、長崎に行く前と行った後では、平和に対する考え方がかなり変わったと思います。僕は平和大使として、この長崎での4日間で学んだ原爆の事、戦争の恐ろしさを、しっかり伝えていきたいと思います。



# 派遣生徒報告



## 「長崎で学んだこと」

普天間中学校 1年  
金武 沙弥乃

私は、8月7日から10日まで宜野湾市平和学習派遣事業に参加し、長崎の原爆について学びました。

長崎には、たくさんの建物が立ち並んでいてここに原爆が投下されたとは、とても信じられませんでした。その中でも浦上天主堂という立派な教会がありました。その教会は弾圧を解かれたキリシタン信徒達が貧しい中、約30年の年月をかけて建てることのできた建物でしたが8月9日11時2分に長崎に投下された一発の原子爆弾により一瞬にして崩壊してしまったそうです。私は、それを聞いて悲しい気持ちになりました。原爆は、人の命もそうですがそこにあるものすべてを一瞬で消し去ってしまうものだとても恐ろしく思いました。

また、原爆資料館では原爆の投下された時間11時2分を示したまま止まっている時計がありました。爆心地から800メートルの所にあった時計と2、8キロメートル先にあった時計の示した時間が同じで原爆の大きさを実感しました。そのほかにも鉄でできた火の見やぐらが根元から折れ曲って炭化していました。話を聞くだけではなく実際に目で見ることによってさらに心に残りました。

現在被爆者の平均年齢はすでに82才を越えているそうです。私は、平和大使の機会を通じて直接、原爆について話を聞くことができましたが、まだ話を聞く機会に恵まれていない人や、これから生まれてくる人たちは戦争や原爆がどんなに恐ろしいものなのかを資料からでしか知ることができません。私ができることは、私が今回見たこと、被爆体験者からの生の声を周りの人に伝えていくことだと思います。長崎市長の長崎平和宣言の中に、このような言葉がありました。

「私たち一人ひとりの力は、微力ではあっても、決して無力ではないのです。」  
今回の経験で、日本や世界の平和に微力でも力になれば良いと思いました。

# 派遣生徒報告



## 「今の私たちにできること」

真志喜中学校 1年  
宮良 綾花

みなさんは、今から約74年前、昭和20年8月9日の午前11時2分に、長崎にたった一発の原子爆弾が投下され、たくさんの方が被害を受けたということを知っていますか？

私は8月7日から10日までの4日、平和学習のため、長崎へ行きました。

私がその中で一番心に残っているのは、「長崎原爆資料館」です。資料館の展示物には、原爆投下中、投下直後の大きなキノコ雲がある映像や、大けがをしている人々や、全身が焼けまっ黒になっていて、まるで人形のようにになっている人々の写真などがありました。

私は、とても怖いと強烈に感じました。なぜなら、たった一発の爆弾で、たくさんの方が焼け、大けがをしたり、亡くなっているからです。

展示物の中には、亡くなった方々の形見もありました。その形見には、ひとつひとつ大切な思い出がありました。そして私は考えました。もし、原爆が投下されていなければ、原爆で亡くなった方々みんながそれぞれたくさんの思い出をつくり、人生を歩めた人じゃないかということです。

ピースフォーラムでは、被爆者の方からお話を聞きました。せっかく原爆で生き残っても放射線で亡くなる人がいたという事を知りました。

原爆や戦争は、たくさんの方の人生を壊し狂わせていきました。今後戦争が、二度とおきないように、被爆者は、悲惨な戦争体験を伝えようとしています。被爆者や戦争体験者は、高齢化で年々減ってきています。このままでは私たちは、戦争の恐ろしさや悲惨さを忘れていってしまいます。戦争によって起こる恐怖や悲惨なことを知らない人が多くなっていくのは危険です。原爆や戦争を体験していない私でも、その恐ろしさや悲惨さを伝えることはできます。また、原爆や戦争体験者の思いをできるだけたくさんの方に伝えていこうと思います。

## 派遣生徒報告



### 「私達のすべきこと」

真志喜中学校 1年  
宮城 ちゃこ

私は、8月7日から8月10日まで、長崎派遣事業に参加しました。この4日間で色々な事を経験しました。ピースフォーラムでの他県との交流会、原爆資料館、平和祈念式典など今までしたことのないことがたくさん経験できました。

原爆資料館では、被爆当時の写真や物、映像などがありました。私が一番衝撃を受けたのは被爆者達の写真です。ひどい火傷を負って、皮膚がただれて顔が分からなかったり、爆風によって割れたガラスの破片が顔、足、腕に刺さって動けなくなっている人、爆撃後の火傷で水を求めて嘆く人々、放射線を浴びて、もがき苦しむ人々など、原爆による被害はとてもひどいものばかりでした。

原爆の被害は人だけではなく、建物も大いに被害を受けました。例として私自身が行った浦上天主堂は設計に30年もかけた教会です。しかし、原爆により20年たらずでくずれてしまいました。浦上天主堂のくずれ具合を見ていると伝わってくる爆撃の衝撃のすごさ。それはもう想像するだけで恐ろしいです。

ピースフォーラムでは、被爆者の築城昭平さんの被爆体験講和を聞きました。未だに世界中には、14,000発ほどの核弾頭が存在していることについて、どう思っているかという質問に対して、昭平さんは、「核兵器の怖さを知って、核兵器は国際連合で管理してほしい。」と話していました。さらに、平和とは何ですか、という質問に対しては、「世界中が人権を大事にして、戦争をしないことが平和である。」とっていました。

私は、今回の長崎派遣事業に参加して、世界中には未だに14,000発の核兵器があるということを初めて知りました。核兵器は、人間だけではなく、自然、建物、動物までもバラバラにしてしまいます。人間の心も体もバラバラにしてしまう戦争はもう二度としてはいけません。これからも平和な日々が続きますように。

# 派遣生徒報告



## 「平和を守るということ」

嘉数中学校 1 年  
名嘉真 遙音

1945 年の 8 月 9 日午前 11 時 2 分、長崎の人々が毎日の日々の生活をしている中、原子爆弾が投下されました。その威力はすさまじく、爆心地から 1.5 キロメートルの所では寺の鐘が変形、変色し、700 メートルでは電柱の碍子が少年の肩に焼きつき、500 メートルでは浦上天主堂が倒壊、焼失、250 メートルでは火の見やぐらが根もとから折れ曲がりました。人々は全身を熱傷し原爆ケロイドとして体に残りました。それだけではなく放射能によって人々はがんなどの病気がいつ発症するかわからない不安を抱えながら生活することを今でも強いられているそうです。

私は平和大使として 8 月 7 日から 10 日まで長崎へ行き、2 日目にピースフォーラムへ参加し、3 日目に原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に出席しました。

ピースフォーラムでは、被爆者の方のお話を聞くことができました。その方は日曜も休みなしで「正義の戦争をしなければ世界が正義じゃなくなってしまう」と信じ、工場で毎日働かされていたそうです。その工場の寮でその方は被爆し、全身を火傷し特に左腕と左足は重傷で、その身をもって体験した核の恐ろしさを伝える活動をされています。核のこわさを全ての人に知ってほしいと語られていたので私にも伝える役割があると感じました。

原爆犠牲者慰霊平和祈念式典では、被爆した方々が合唱された曲「もう二度と」の最後の歌詞が心に残っています。

「もう二度と作らないで わたしたち被爆者を この広い世界の 人々の中に」という歌詞で、この歌詞から被爆者の方々の思いが伝わってきました。恐ろしい、核兵器は世界にまだ約 14,000 発も残っているといられています。核があることで戦争が起きないと考えている国もあるそうです。核の恐ろしさをもっと広まって「もう二度と」広島、長崎で起きたようなことがないように、これから伝えていこうと思います。

# 派遣生徒報告



## 「紡いでいく人と人の輪」

嘉数中学校 1 年  
名護 天志

僕は、今回の宜野湾市平和学習派遣事業に参加して、被爆地、長崎の今と昔について知ることが出来ました。

長崎では初日にロープウェイに乗りました。乗っている間に見えた景色は、たくさんの木々と、建物がありました。展望台からの景色は、世界三大夜景の一つで、1千万ドルの夜景といわれているそうです。僕は、「とてもきれいだし、のどかな場所もたくさんあって、本当にここが被爆地なのか?」と思いました。ですが次の日、その考えが間違っていることが分かりました。長崎原爆資料館で、74年前の8月9日午前11時2分に、何があったのかを知ったからです。そこで見たものは原爆の悲惨さを感じさせるものでした。例えば、爆心地から800mの所にあった民家の柱時計は爆風で損傷し、原爆が落ちた時間の11時2分で止まっています。その他にも、浦上天主堂という信者の皆さん達が作った、当時の東洋一といわれる大きな教会がありました。原爆の日に、爆風で堂壁の一部を残し大破しましたが、中のマリア像の頭部は見つかり、今は被爆マリアと呼ばれています。この様なたくさんの文化と約74,000人の命を奪った核、その模型も、この資料館にありました。その核の名前はファットマン、太い人という意味で、全長3,25m、重量4,57、直径2,52mで、たしかに太く見えますが、その効果は4km先の人でも屋外に出ている人は火傷するほどということが分かりました。

このような危険な核がまだ13,880ほど保有されていると考えると恐ろしくなり、もうこれ以上第二の広島、長崎を作りたくはありません。

そのため僕は、今回学んだ戦争の事実、命の尊さ、大切さ、全ての物事がかけがえのない物だということをたくさんの人へと伝えたいと思います。そして、人と人との平和の輪を絶やさず広げていきたいと思います。

派遣生徒報告



## 「色々な戦争とその復興」

宜野湾中学校 1年  
屋良 磨輝

私は長崎での4日間と、沖縄県内での事前学習を通して様々なことを学びました。その中でも大きく分けると3つのことを学びました。

1つ目は、沖縄戦についてです。沖縄では日本でも数少ない地上戦が行われました。そこで有名な人たちは白梅学徒隊などがいます。白梅学徒隊とは、私たちのような子どもが戦争の看護要員として動員され、日本兵の手当てをするなどをしていましたそうです。そして私は、その白梅学徒隊をモデルとして作られた、『白梅学徒から託されたもの』を見てとてもおどろきました。それは初め、白梅学徒の人は、日本兵の看護をすることをよろこんでいたからです。それは天皇に命をささげるという考えをしていたからです。この言葉を聞いて本当は自分も生きたいという気持ちをかくしていたのだと思い、とてもかわいそうになりました。

2つ目は、長崎での戦争についてです。長崎は沖縄とはちがい原爆が投下され、一瞬にしてたくさんの命がうばわれたのです。被爆者の築城昭平さんによると、私たちが考えるところのけがをして血が流れ出してくるところのものではなかったそうです。体のすべてが真っ赤になり、ひどい人では顔の前とうしろがどちらか分からなかったそうです。

このようなことがあったにもかかわらず、まだ世界には、原子爆弾が13,880個もあるそうなので被爆国の人として世界に訴えていきたいです。

3つ目は、長崎の被爆後の復興です。また、永井博士の存在をはじめて知りました。永井博士という方は自ら出血をおこしながらも救護活動をしたり、平和を様々な人に訴えていたそうです。私は永井博士のように人のため、そして平和のために生きられる人になりたいです。

私はこの機会に学習したことを知人に話し、戦争がだめだというだけでなくその理由までしっかりと伝え、命の大切さ、原子爆弾の危険で恐ろしさというものをしっかり伝えていきたいです。

\*\*\*\*\*  
派遣生徒告  
\*\*\*\*\*



「平和な世界を作るために」

宜野湾中学校 1年  
屋嘉比 絢奈

私はこの4日間の平和学習で原爆の悲惨さ、被爆者の後遺症など、被爆地長崎でしか学べないことを、たくさん学ぶことができました。

私が一番印象に残ったのは、原爆投下時の話です。長崎の原爆の特徴は、女性（母親）子供の被爆者多い事です。その理由は、原爆投下場所にあります。長崎の中心部に、原爆を投下する予定だったのですが、雲が厚く町が見えなかったため断念し、長崎の空を飛んでいるときに、長崎市上空の雲が少し切れそのすきまから、原爆は投下されました。住宅地の近くで、お昼頃に投下されたため、父親は働きに出ていて、家にいた女性（母親）子供が多く犠牲になりました。8月9日長崎が晴れていれば、被害は大きくなりますが、女性、子供は生きていたかもしれません。

ピースフォーラムでは、紙芝居やフィールドワーク、「戦争の原因とみんなのできる解決策」について意見交換をしました。意見交換をしていく中で、自分では考えられなかった考えや、別の視点からの考えがわかり、より深く考えることができました。

世界には15,000発もの核兵器が存在します。核兵器を保有している国の半数は、「相手国を威嚇するために保有している」と言っていますが、使おうと思えばいつでも、どこでも核兵器を投下することができるのです。これほど恐ろしいことはありません。

こんな事は、もう二度と起きてはいけません。長崎を最後の被爆地に、もう二度と戦争を起こさないようにしなければいけません。被爆者、戦争体験者が少なくなっている今、私は、この平和学習で学んだことを、次の世代に語りつぎ後世に残していきます。そして、広島、長崎、沖縄での尊い命がうばわれたことを忘れず、平和への思いを胸に、1秒1秒大切に生きていたいと思いました。

# 実施要綱

## 宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

### (目的)

第 1 条 この要綱は、市の平和行政の推進を目的とする宜野湾市平和市民啓発事業の実施により市内生徒を原爆被爆地に派遣し、平和に関する学習、交流等を通して平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために、市立中学校に在籍する生徒のなかから派遣される生徒(以下「派遣生徒」という。)を選抜すると共に、その役割及び平和学習派遣事業実施等に関する基本的な事項を定めることを目的とする。

### (派遣生徒の選抜)

第 2 条 派遣生徒は、思想、信条、宗教の如何を問わず広く平和を愛する市立中学校に在籍する生徒のなかから以下の要領で選抜する。

- (1) 派遣生徒は市立中学校に在籍する生徒から 2 名選抜し、定数は 8 名以内とする。
- (2) 派遣生徒の対象学年は中学校全学年とし、選抜方法については各学校長に一任する。
- (3) 派遣生徒は各中学校長名での推薦書(様式第 1 号)及び保護者の派遣同意書(様式第 2 号)を市長に提出し審査後、市長が派遣を決定する。
- (4) 派遣が決定した後に、派遣生徒本人からの辞退申し出があった場合はさらに同一中学校区より補充し、決定する。

### (役割)

第 3 条 派遣生徒は、日本国憲法の理念を大切にし、戦争のない社会、ひとりひとりの生命を限りなく大切にする人間尊重の社会を創り、それを発展させるための平和交流及び日常的に生活の中で平和について積極的な活動を行うことを役割とする。

### (平和学習への派遣)

第 4 条 派遣生徒は、市の計画する以下の内容の平和学習派遣事業に参加し、平和への認識を深める研修・交流活動を行うものとする。

- (1) 平和学習派遣は 8 月に実施し、派遣先は広島市、長崎市のどちらかを市が決定する。
- (2) 派遣期間は原則として 4 日以内とする。
- (3) 派遣生徒は市の計画する事前学習に積極的に参加するものとする。



(費用負担)

第5条 平和学習派遣に係る費用負担については以下のとおりとする。

- (1) 派遣に関する費用(実費)については、旅費・交通費、宿泊費、食卓費、旅行保険費用等は市の負担とする。但し、事前学習の交通費については派遣生徒の負担とする。
- (2) 平和学習に関する費用(実費)については、参加料、講師料、施設入館料については市の負担とする。
- (3) 事前研修及び派遣期間中に派遣生徒の責任により生じた経費及び疾病などによる経費は派遣生徒の負担とする。

(随行員)

第6条 派遣期間中においては、下記のいずれかの職員が派遣生徒を随行するものとする。

- (1) 教育委員会職員
- (2) 中学校教員
- (3) 事務局職員

(派遣後の報告書の提出)

第7条 派遣生徒は、派遣事業終了後、以下の内容で報告書を提出しなければならない。

- (1) 派遣生徒は派遣事業終了後1ヶ月以内に市長へ報告書を提出する。
- (2) 前号で定める報告書は、400字詰め原稿用紙2枚以上とする。

(事務局)

第8条 本事業の事務局を平和行政担当課に置く。

附 則(平成17年6月8日決裁)

附 則(平成24年4月12日決裁)

附 則(平成29年3月28日決裁)

この要綱は決裁の日から施行する。

# 世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市



## 平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日  
宜野湾市

資料提供 長崎市 被爆継承課

発行 宜野湾市  
市民協働推進課 平和・男女共同係  
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1  
TEL 098-893-4119 FAX 098-892-7022  
HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>